

橋梁技術発表会及び講演会

—伊藤學賞表彰式—

参加費無料
定員650名
申込先着順

13:00~13:10

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 坂本 眞

第1部:技術発表会(前半)

13:10~13:50

1.動き出した鋼橋の大規模更新

～床版取替え工事における床版形式の
選定から維持管理まで～
床版小委員会 床版施工部会 出口 哲義

13:50~14:30

2.鋼橋の溶接継手の研究

～裏波を有する片面突合せ溶接継手の疲労強度～
製作小委員会 製作部会 武田 有祐

14:30~14:45

休憩

第2部:伊藤學賞表彰式

14:45~14:55

1.受賞者紹介

14:55~15:05

2.表彰式

15:10~15:50

3.伊藤學賞受賞者講演

～「私」の橋梁技術史～

横浜国立大学 先端科学高等研究院
上席特別教授
藤野 陽三



15:50~16:00

休憩

第3部:技術発表会(後半)

16:00~16:15

橋建協報告

～これからの墜落事故防止対策～ 安全委員会

16:15~16:55

3.「合成桁の設計例と解説」の 改訂について

～こんなに変わった合成桁の設計～
設計小委員会 設計部会 堀井 滋則

16:55~17:00

閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会
委員長 上原 正

平成30年

日時

11

水

21

13:00~17:00

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6

Tel.03-3542-8585

申込方法

ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで
(受付は平成30年10月10日~11月7日)

申込期限

平成30年11月7日(水)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11
西新橋光和ビル9階 Tel. 03-3507-5225

継続教育

CPDS認定予定

他地区

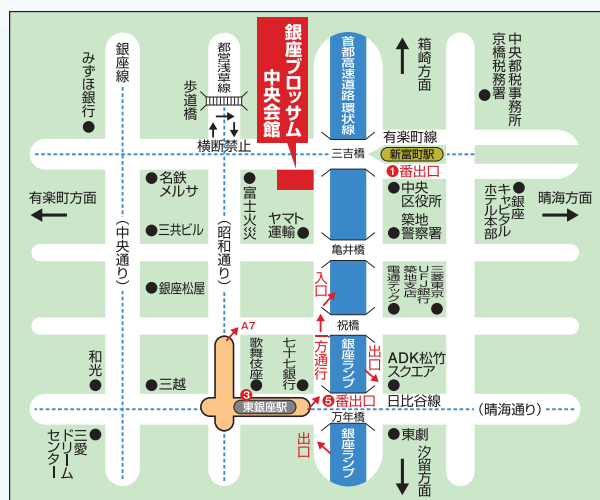
大阪地区は	10月 5日(金)	ドーンセンター
中部地区は	10月12日(金)	東建ホール
九州地区は	10月26日(金)	レソラNTT夢天神ホール
北海道地区は	11月 2日(金)	北海道経済センター
東北地区は	11月16日(金)	仙台国際センター

にて開催です。

(6地区開催ですが、発表テーマは異なります)

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

アクセス



●東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分

●東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3・5番出口 徒歩8分

1 動き出した鋼橋の大規模更新

～床版取替え工事における床版形式の選定から維持管理まで～

鋼道路橋の鉄筋コンクリート床版(以下RC床版)は、開通から30年以上経過したものも多く、当時の設計基準により設計・施工されているものは、現在の基準に適合するように補強を行いながら供用している。また、塩害・凍害等の材料劣化や車両荷重・交通量の増大により、複合的に劣化が促進される場合があり、進行すれば陥没等の大きな損傷が発生する。このため、多くの路線で更新工事が立案・実施されている。

RC床版の取替え工事は、架橋地点の施工環境や橋梁の構造形式により様々な制約条件があり、それぞれの条件に応じて施工幅員や取替え床版の形式を選定する必要がある。また、限られた時間の中で行うことが多く、必要な工種を把握し、入念な施工計画を立案する必要がある。このため、橋建協ではRC床版の取替え施工を行う際に利用できる「床版取替え施工の手引き」を発刊した。発表会では、手引きに沿って床版取替えの概説を分かり易く発表します。

2 鋼橋の溶接継手の研究

～裏波を有する片面突合せ溶接継手の疲労強度～

鋼床版デッキプレートなどの現場突合せ溶接継手では、裏当て材を用いて裏波を形成する片面溶接法が用いられることが多い。両面突合せ溶接継手については数多くの疲労試験データがあり、それらに基づいて、日本鋼構造協会の「鋼構造物の疲労設計指針・同解説」では疲労強度等級をD 等級としている。裏波を有する片面突合せ溶接継手に対しては、両面突合せ溶接継手の疲労試験結果から類推して、裏波形状が良好な場合には強度等級をD 等級としているが、裏波を有する片面突合せ溶接継手の疲労試験データは少なく、また良好な裏波形状の定義もなされていない。なお、道路橋示方書・同解説においても良好な裏波形状を有する片面突合せ溶接継手の疲労強度等級はD等級である。

本発表では、裏波を有する片面突合せ溶接継手の疲労強度と良好な裏波形状の定義を明らかにすることを目的として、様々な溶接形状の裏波を有する片面突合せ溶接継手の試験体を製作し、軸方向荷重と板曲げ荷重下で疲労試験を行った結果や、応力解析を行うことにより良好な裏波形状について検討した結果について発表します。

3 「合成桁の設計例と解説」の改訂について

～こんなに変わった合成桁の設計～

「合成桁の設計例と解説」は、鋼橋設計の入門書として多くの方々にご利用頂いておりますが、この度、H29年の道路橋示方書改定に合わせて13年ぶりに改訂いたしました。今回の道示改定では、設計供用期間として100年を標準とすることが定められ、設計手法も従前の許容応力度設計法から部分係数設計法へと大きく変わりました。また、設計に求められる要求性能も耐荷性能、耐久性能、その他性能に大別され、耐荷性能の照査については、最大断面力を二つの限界状態で照査するなど、今までになかった全く新しい概念が導入されています。これらに準拠した改訂版のポイントや留意点について執筆者が分かり易く解説します。

伊藤學賞 受賞者紹介

～「私」の橋梁技術史～

—略歴—

1972年 4月 東京大学大学院工学部土木工学科卒業
1974年 3月 東京大学修士課程(土木工学)修了 工学修士
1976年 9月 ウォータール大学 博士課程修了 Doctor of Philosophy
東京大学地震研究所助手、筑波大学構造工学系助手・講師を経て
1982年 4月 東京大学工学部助教授(土木工学科)
1990年 7月 東京大学工学部教授(土木工学科)
2010年 4月 東京大学工学部特任教授(社会基盤学専攻)
2013年 6月 東京大学名誉教授
2014年10月 横浜国立大学 先端科学高等研究院 上席特別教授
現在に至る

藤野 陽三

横浜国立大学 先端科学高等研究院
上席特別教授

講演概要

1982年に東大に奉職してから、様々な橋梁プロジェクトに参加して、今日に至っている。
橋梁計画、設計、耐風、耐震、維持管理...
反省を含めてそれらを振り返るとともに、これからの橋梁業界への期待をお話します。

平成30年度

11月21日(水)

橋梁技術発表会

[東京地区]

参加申込方法



 一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association Inc.

ホームページよりお申込み下さい。

http://www.jasbc.or.jp/

「技術発表会」
の申し込みはこちら。